

奈良町での防犯 防災の方向性を

研究会が報告書

中新屋町プロジェクト

「安全・安心・快適」な町屋暮

奈良市の中新屋町自治会と(株)奈良まちづくりセンターの関係者で構成する「奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会(まとめ役・上嶋晴久奈良まちづくりセンター理事)」は、このほど同研究会での検討内容を「中新屋町プロジェクト」と名付けた報告書としてまとめた。奈良町での防犯・防災などについて方向性をより具体的に示しながら「いかに長く住み続けていけるかを念頭にまとめた(上嶋理事)とコメント。今回の内容をテストケースとして、今後具体的な事業活動への取り組みにつなげていきたい考えだ。

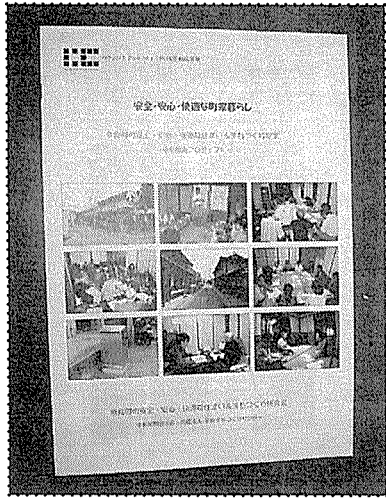
(村井)

今回の活動等は、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成事業として取り組んだ。奈良町の中心部に位置する中新屋町は、数年前に火

災が2件発生。その後、自治会では防火バケツを軒先に置くなどの防火意識の向上に努めている。ただ歴史的町並みを持つ地域は、高齢化や観光化に

伴う弊害、木造密集地での火災・地震等への防災、防犯、独居高齢者の緊急時通報システムなど、高齢者やハンディを持った人々が安心して長く住み続けるため

には、町や住まいへの十分な配慮が必要となる。この観点から中新屋町をケース・スタディし、住環境の技術、地域コミュニティ



イとしての具体的な助け合いや緊急連絡体制などのシステムを研究・提案し、安全・安心・快適な町家暮らしの促進と歴史的町並み保全に役立つことを目的として活動し、報告書としてまとめた。昨年7月から地域問題、防災問題、防犯問題、総合計4回のワークショップを経てまとめた報告書(P用パンフレット)では、大きく①まちぐるみの防災②まちぐるみの防犯③高齢者が安心して暮らせる町と住まいなどで構成。うち①では▽地震に強い

町家づくり▽火災に強い町家づくり▽ブロック塀等の点検整備▽災害時の隣地への緊急避難口▽町の緊急連絡網と避難場所、連絡先▽空地の有効活用▽初期消火を地元で出来るシステム▽自主防災組織▽近隣自治会との協同の項目を列記。②では▽路地や空地、駐車場を明るく▽近所同士のコミュニティションによる助け合い▽不審者に対する声かけを明記。さらに③では▽緊急避難のシミュレーション▽緊急連絡先の自治会届出▽緊急進入経路の確認▽非常連絡装置▽見守りチームを組織について盛り込んだ。PR用のパンフレットはカラー刷りで、写真等を多様するなど高齢者にも分かりやすい内容として配慮している。

同研究会ではこれまで福祉や建築関係の専門家による勉強会レベルで続けてきたが、今回の事業活動を機に、実質的な町家や町を調査し、町の人々を巻き込む形で、専門家をネットワークするような対応へ飛躍することも検討。さらに安全・安心・快適に関する町の人の要求を、個々の建物やまちづくりについて実現するため「プロジェクト」という形をサブピクとして提供できる組織づくりを行っていく必要がある」と判断している。また行政への提言では「政策提案ができるシンクタンクとしても機能することが求められている」と示すとともにNPOによる地域整備システムという新産業の展開も考えられると明記。今後の積極的な活動次第では、奈良町だけでなく県全体も視野にした同研究会の目指すべき姿があることも強調している。